

# 閑話 休題

<カンワキュウダイ>

無駄話をやめて、話の本題に入ること。テイクアップ編集室がたまにマジメなことを語るスペースです。

スローライフ、スローフードという言葉。CMをはじめ各種メディアでもはやされ、今となっては少々使い古された感すらありますが、そんな今あえての質問。自然と四季豊かな秋田に暮らす私たちはスローライフを実践できているでしょうか？

忙しい現代だからこそ、ちょっとの意識で変わるスローライフへの第一歩、のお話。

## 五回目の本題

# 旧暦と暮らす スローライフ

忙しかったって  
こころは“ゆったり”  
それこそがスローライフ

花や食材や環境を取り入れて祝う日本の伝統行事。みなさんはそのタイミングについて疑問に思ったことはありませんか？

お正月は冬なのになぜ年賀状に「新春」と書くのか。どうして梅雨の6月が「水無月」なのか。草の少ない真冬になぜ七草のおかゆを作るのか。自然の桃の花をお雛様に飾れるのは沖縄くらいなんじゃない…？

挙げればきりがありませんが、上記の疑問の鍵は“旧暦”が握っています。「そんなの知ってるよ!」という方も再確認の意味で今しばらくお付き合いを。

旧暦は月の満ち欠けに基づいて形成され、1ヶ月が29日か30日、1年を355日で考えていました。残った約10日分をまとめて「うるう月」として調節しますが、その計算方法は複雑で難解なものでした。これに対し新暦は地球が太陽の周りを1週した365.25日で0.25日を切り捨て、4年に一度の「うるう年」で調節するわかりやすいもの。新暦が採用された明治5年12月2日の翌日は明治6年1月1日でした。ですから

旧暦の正月は新暦の2月18日(2007年)。7月の七夕は、織姫と彦星の逢瀬を梅雨の雨雲で邪魔しようというわけではなく、星と天の川がきれいに見える8月中旬(2007年は8月19日)をさしていた、というわけです。

経済性を重視して時間に追われ、1年中どんな花も食物も手に入り、季節を意識しなくなった現代社会の生活スタイルに少々疲れを感じている人もいるのでは。旧暦のなかで折々に季節を感じ、自然とふれあいながら共に生きる暮らし。それこそが“スローライフ”かもしれない。太陽ではちょっと眩しすぎるから、月の柔らかな光でやさしく照らしてみる。現代人が忘れていたものが少しずつ見えてきて、せわしない暮らしにゆとりができ、季節を感じる豊かなところが再び生まれてくるような気がします。

でもひと月が29日サイクルだったらテイクアップの発行サイクルも短くなって、ますます時間に追われることに…。ここは理想と現実を賢く(?)使い分け、実生活は新暦、こころは旧暦…ということ。

## 二十四節気と雑節

二十四節気は旧暦で季節を表すために用いられたもの。1年を24等分し、約15日ごとに名前が付いています。春分や秋分、夏至、冬至など。このほか、季節の移り変わりをより的確に知るために設けられたのが、土用や節分、彼岸などの雑節です。2007年9月・10月の二十四節気と雑節は右記の通り。

- ・白露(はくろ)  
9月8日。大気が冷え、草花に露が白く降りる時期。
- ・秋分(しゅうぶん)  
9月23日頃。昼の長さや夜の長さが同じになる日。
- ・寒露(かんろ)  
10月9日。草木に降りる露が冷たく感じられる時期。
- ・霜降(そうこう)  
10月24日。霜が降り始める時期。
- ・二百十日(にひゃくとおか 雑節)  
9月1日。立春から数えて210日目。台風の襲来する時期として恐れられ、富山の「おわら風の盆」など各地で風雨を鎮めるための祭が催されてきた。

## まずは、知ることから…。

旧暦って?どんなふうに取り入れたいの?そんな疑問とあなたに合った暮らしのかたちを探る一冊

- ・暮らしに生かす旧暦ノート  
河出書房新社 鈴木 充広
- ・旧暦と暮らす スローライフの知恵ごよみ  
ビジネス社 松村 賢治
- ・おりおりに和暦のある暮らし  
角川書店 旧暦くらし研究会